

『帝都復興展覧会ポスター』

1929年 54×38 cm、76×54 cm 図書番号 OBZ-1839、OBZ-1840

1929（昭和4）年10月19日、市政会館と日比谷公会堂が竣工した。同日、公会堂では東京市政調査会が関係者1600名を招待し、落成式が挙行された。そして市政会館では、同日より東京市政調査会主催、復興局、東京市後援のもとに帝都復興展覧会が開催された。

展覧会開催にあたって東京市政調査会は、評議員として関屋貞三郎氏（宮内次官）ら24名、委員として北村耕造氏（宮内省内匠寮工務課長）ら70名を嘱託し、その所属官公庁等からの出品に関する労を請い、また特別委員に秋保安治氏（東京博物館長）ら3名を嘱託し、実務上の助言を受けた。

出品については、東京市政調査会から官公庁や学術研究団体等への依頼のほか、雑誌『都市問題』誌上でも資料提供を呼びかけた。その結果寄せられた関東大震災や帝都復興に関する多数の出品は、『帝都復興展覧会出品目録』（東京市政調査会編、1929〔昭和4〕年）にまとめられた。

展覧会の宣伝のために、東京市政調査会はポスター等を作製した。4種類作製したポスターは市電や郊外電鉄、市内外の浴場、官公署、町内会、郊外町村役場等へ掲示を依頼し、電車内や掲示場等に掲出された。また東京市、横浜市の小学生に対しては、当該市区長を介して無料入場券を配付した。

展覧会は、10月19日から当初の予定を2日間延長して11月10日まで開催された。23日間の会期中に11万人を超える入場者があった。展示には、市政会館の地階から3階まで、延べ面積4000m²以上が使用された。地階に設けられた余興場では、映画上映等も行われた。

雑誌『都市問題』第10巻1号（1930〔昭和5〕年1月号）には、復興展記念特輯として、主要出品物の概説とともに、各階ごとの陳列順の出品目録が掲載されている。各階ごとの配置図は、『帝都復興祭志』（東京市編、1932〔昭和7〕年3月）に掲載されている。

なお、展覧会の出品物については、東京震災記念事業協会、東京市政調査会、東京市の連名文書で、東京震災記念事業協会への寄贈もしくは保管委託を、出品者に依頼した。

東京市が設立した東京震災記念事業協会は、関東大震災を記念し、遭難者の靈を弔うために、本所区（現・墨田区）の陸軍被服廠跡に震災記念堂（現・東京都慰靈堂）、復興記念館（現・東京都復興記念館）を建設した。展覧会の出品物のうち、610点が復興記念館に収蔵された。東京市政調査会が出品した「大東京都市計画模型」は、現在も同館に展示されている。

また、図表等約300点の出品物と関係資料を集録した『帝都復興事業大観 上・下巻』（東京市政調査会校閲）が、1930（昭和5）年3月に日本統計普及会から発行された。

（山野辺香葉・市政専門図書館司書主任）